

えひめの子どもたちへのメッセージ

～みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために、確かな行動に表そう～



県内すべての小中学校をオンラインでつなぐ「えひめいじめSTOP!」デー。以前は、小中学校の代表者による「子ども会議」等を開催していましたが、コロナ禍で一か所に集まるのが困難になったため、オンライン形式での開催に変更したところ、全国でも類を見ない愛媛県ならではの取組として、小学6年生と中学1年生を中心に約23,000人が参加し、みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために、事前に配信したミニ動画や演劇による問題提起、リアルタイムでのアンケートなどを通して、熱心な議論が行われました。その中で意見として出された、「自分自身を見つめること」や「友達の個性や考えの違いを認めること」は、ライブ授業でもお話をあった「人とよりよく関わる方法」に通じるものであり、児童生徒の皆さんがいじめ問題に真剣に向き合っている大変強く感じました。

3年目となる今年度は、「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために」をテーマに、事前に配信したミニ動画や演劇による問題提起、リアルタイムでのアンケートなどを通して、熱心な議論が行われました。その中で意見として出された、「自分自身を見つめること」や「友達の個性や考えの違いを認めること」は、ライブ授業でもお話をあった「人とよりよく関わる方法」に通じるものであり、児童生徒の皆さんがいじめ問題に真剣に向き合っている大変強く感じました。

「えひめいじめSTOP!」デーは、いじめ問題の解決に向けた一つのステップです。次のステップは、皆さんが、今後、確かな行動につなげていくことです。話し合いができたことを、日常の行動に表すことで、変化が生まれます。はじめの変化は小さくても、積み重ねていけば、必ずや大きな変革をもたらすことができます。いじめの起こりにくい学級・学校づくりに向け、皆さん一人ひとりが考え、実践してほしいと願っています。

保護者や地域の皆様、子どもたちが学校で安心して学べる環境をつくるためには、いじめ問題について当事者意識をもって考え、地域社会全体で人を尊重する精神の涵養や、いじめを見逃さない雰囲気醸成することが大切であると考えます。子どもたちの考えや意見を尊重しながら、豊かな感性を育み、見守り、支えていただきますようお願いいたします。

最後に、「えひめいじめSTOP!」デーの開催に当たり、ご理解とご協力をいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

愛媛県教育委員会
人権教育課
2024年(令和6年)
2月発行

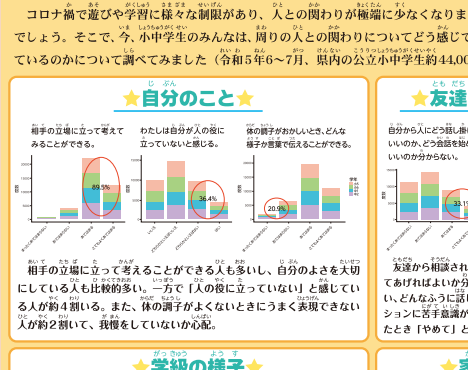
えひめ愛顔の子ども新聞



小5～中2のみんなに聞いてみた!

自分のこと・友達のこと・人とつながること

コロナ禍で遊びや学習に様々な制限があり、人と関わりが極端に少なくなりました。寂しい思いを経験した人も多かったことでしょう。そこで、今、小中学生のみんなは、周りの人との関わりについてどう感じているのか、それが心や体の健康とどうつながっているのかについて調べてみました(令和5年6～7月、県内の公立小中学生約44,000人を対象にアンケートを実施しました)。



みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために

県内一斉ライブ授業 えひめいじめSTOP!」デー」開催

令和5年11月16日(木)、宇和島市立南予文化会館をメイン会場に、県内すべての市町をオンラインでつなぐ一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!」デーが開催されました。小学校6年生と中学校1年生を中心に約23,000人が参加し、みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるためにはどうすればよいかについて話し合い、考えを深めました。

ライブ授業前半

ライブ授業の前半では、昨年と同じように劇を鑑賞し、自分が劇の登場人物の立場だったら、どのような行動を取るのかについて各学級で話し合いました。リモートでつながった6校から、「そっとしておいてほしい気持ちと声を掛けてほしい気持ちがある」など、多様な意見が出されました。後半は、「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために必要なこと」についてライブアンケートを実施。約18,000人からの回答は、「普段から様々な人と関わること」「意見を最初から否定せず、まずは受け止めることが大切」といった意見など、何でも言い合える環境や人との信頼関係をつくることの大切さについての意見が熱く交わられました。

ライブ授業後半

「みんなと違うな」と感じることに
ついて話し合ったこと
みんな何事もなげに思えて、いろいろな悩みを抱えているんだな
感じ方・受け止め方は人によってそれぞれ違うんだな

まとめ

「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために」
みんなでできること
一人ひとりでできること

相談窓口

気軽に相談してね
いじめ相談ダイヤル24
SNS相談ほっとえひめ
中高生専用

ライブ授業前

今年もセンター校とリモート校では、「事前ワークショップ」を行ったよ。ゲームを通して、友達のことを知ったり、演劇ワークショップで相手の立場に立って考えたりしたよ。

センター校

○宇和島市立鶴島小学校
○宇和島市立岩城中学校
当日の演劇は、実は、私たちの実体験に基づいたお話でした。役を演じることで分かった人の「気持ち」を理解できました!

ライブ授業前半

この劇を観て、もし自分が主人公だったらどうするか、その立場だったらどうするか、考えながら、人との違いや、その違いを認め合うことについて話し合っていました。

リモート校

○新居浜市立中萩小学校
○上島町立岩城中学校
○伊予市立北山崎小学校
○松山市立余土中学校

6年生、ハイ!

授業中、急に明日の全校集会の司会進行を決めることにみんなが嫌がる中、勇気を出して手を挙げたきょうか。最初は、みんなきょうかを否定するが、きょうかの頑張る姿にみんなの心が動かされていく...

サテライト校 408校

今年もライブ授業の前夜にミニ動画を見て、ご自身の生活を見直したり、クラスで話し合ったりしたよ。

劇を通して話し合ったこと

「きょうか、目の前にいたら、どう関わる?」
「しんが、目の前にいたら、どう関わる?」
「自分が、しんだったら、どうしてほしい?」

考えるポイント

5分間のショートストーリー

先生方から

「いじめSTOP!」デー後のみんなの様子について
「いじめSTOP!」デーを開催したり、校内放送で紹介したりすることで、学級・学校全体の意識が向上している
「人として一人ひとりを大切にしよう」と意識するようになった
互いのよさを認め合い、話し合う言葉がけができるようになった
自分勝手な振る舞いを、周りの人に迷惑をかけていることに気付くようになった
全員が一斉に「いじめを許さない」「いじめが起こる雰囲気をつくらない」といった気持ちをもちあがってきた
いじめ防止ポスターを作成したという声があがり、作成している学級発表会で同じテーマをするようになった

ゲストから

スペシャルゲスト あばれる君

小中学生の真剣な話し合いや、熱のこもった演劇を振り返りながら、「悩んでいるときには、友達に話すと楽になることもある。気軽に話せる関係性をつくっておくことが大切」と、笑顔を交えて話し合いを盛り上げました。また、日頃の友人とのよりよい関係づくりについては、「自分に厳しくしすぎないといい。そう考えることで自分は楽になった」と、自らの経験を交えて、子どもたちにエールを送りました。

アドバイザーから

西原勝利先生 (愛媛県教育カウンセラー協会代表)

「みんなが安心して過ごすことのできる学級・学校をつくるためには、日頃の関わりが大切」とアドバイスされました。様子が見える友人がいたら、「大丈夫?」「直にできることがあったら言ってね!」といった声掛けができるような仲間づくりをしておくといい、お話を聞いてみました。また、「自分の短所は長所になることもある。物事をポジティブに考えるリフレーミングを行うことで、もっと自分に自信をもってほしい」と、エールを送られました。

ライブ授業後半

「みんなと違うな」と感じることに
ついて話し合ったこと
みんな何事もなげに思えて、いろいろな悩みを抱えているんだな
感じ方・受け止め方は人によってそれぞれ違うんだな

まとめ

「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために」
みんなでできること
一人ひとりでできること

ライブ授業中

わたしのホンネ

ライブ授業中に1人1人コメントを使って、みんなが言えなかった気持ちのなかから、いくつか紹介するね!

みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために必要なこと

- 「しんどい」「助けて」といっても発言できず、それをみんなで見逃さず声をかけてくれる環境づくり
- 人を否定しないこと
- 正しいことをしている人を批判しない
- 自分を基準にして勝手に決めない
- みんながいじめのことについて理解する
- 相手からではなく、自分から変わる

先生方から

「いじめSTOP!」デー後のみんなの様子について
「いじめSTOP!」デーを開催したり、校内放送で紹介したりすることで、学級・学校全体の意識が向上している
「人として一人ひとりを大切にしよう」と意識するようになった
互いのよさを認め合い、話し合う言葉がけができるようになった
自分勝手な振る舞いを、周りの人に迷惑をかけていることに気付くようになった
全員が一斉に「いじめを許さない」「いじめが起こる雰囲気をつくらない」といった気持ちをもちあがってきた
いじめ防止ポスターを作成したという声があがり、作成している学級発表会で同じテーマをするようになった

令和5年度 人権ポスター特選作品

人権尊重の意識を高めるためのポスター展

令和5年度は、小学校・中学校・高等学校等から計45,135点の作品が寄せられ、審査の結果、5点が特選作品として選ばれました。

「見えないうちこそ 敬愛と愛を」

西条市立南予東中学校 3年 越智 彩葉 さん
「お互いの顔が見えないけれどインターネットの長所であり、短所でもあります。自分の顔を見えないからこそ、人前ではなかなか勇気が出る人でも、思ったことを言ったりすることがあります。しかし一歩踏み出せば、相手の気持ちを察知した行動になってしまったりもします。全ての人に尊重されるべき人間があります。相手を知ることがその心を痛くしてしまうことにつながるのです。私はポスター制作にあたって、「画面に写ってはいなくても、その間にいる人」に「相手が見えないからこそ敬意を払って関わることが大切だ」という二つのメッセージを込めました。このポスターが、みなさんのインターネットを使うときのリミッターのような存在になることを願っています。

「人生 自分で」

愛媛県立今治高等学校 1年 木原 涼帆 さん
人間は誰もが「自分色」を自由に決める権利があるし、本人以外が他人の色で染めることはできない。そんなメッセージをこのポスターに込めました。このメッセージをより強く伝えるために、キャラクターにはなるべく前向きで、力強いものにした。今回のポスターで、見た人が明るく前向きな気持ちになれることを願いました。そのために、「自分色」をハケで力強く塗る様子や表情に力を入れました。また、色が豊かになると髪や服などの違いを分かりやすくすることを両立するために、朝顔の花を背景に描きました。このポスターを見た人が、「自分色」に自信をもつことができるといいなと思います。

「心を通わせて 個性を認め合おう」

八幡浜市立立戸岡小学校 6年 吉川 陸 さん
6年生になって、社会科の授業で憲法について勉強し、「基本的人権の尊重」や「法の下の平等」を知りました。この世の中には、いじめや差別は許されず、みんなが尊重されることができると考えた。世界平和のためにも、だれとでも心を通わせることができる世の中になることを願っています。本当にそのためには、性別、年齢、人種、国籍、見た目も立場も関係のない、そのまますべての自分自身で、おなごが理解し合える世の中になることを願っています。心を通わせて相手を受け入れることが大切です。そのような世の中。このポスターには、まず自分自身を尊重すること。特に、自分の表情にこだわりました。また、地球上の誰れとでも仲良くしたいという思いをこめて、地球を描きました。将来、世界中にたくさん友達を作ることが、僕の夢です。

愛媛大学教育学部 学生の皆さんから

会場にいる人だけでなく、モニターの向こうにいる小中学生を見て一つのテーマについて考えている様子や、学級活動的な様子も見て、「みんな安心して過ごすことのできる学級・学校」は、どの学校でも目指していきたいものだと思います。そのために、今回のライブ授業で出た意見や一つ一つに取り組みすることができれば、それは素晴らしいことだと思います。ぜひ、自分自身の考えや気持ちを伝えたいことが整理できるまで少しお話しして欲しい

「みんな 仲間」

宇和島市立明倫小学校 4年 織田 真代 さん
今回は、たくさんの仲間がいます。一緒に勉強したり遊びに行ったりしているクラスの仲間。同じ目標に向かって練習を続けている部活動の仲間。そんな仲間のことを心に思い浮かべながら、このポスターを描きました。どんなに苦しいことでも、この大きな仲間を思い出せば、自分自身も頑張ることができると思っています。どんなに苦しいことでも、この大きな仲間を思い出せば、自分自身も頑張ることができると思っています。どんなに苦しいことでも、この大きな仲間を思い出せば、自分自身も頑張ることができると思っています。

「来年度は中予から 発信します」

令和6年度は中学の中学校代表者をセンター校に一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!」デー plus」として、これまでの取組と人間関係構築力の見方を「プラス」して発信します。人とのよりよい関係づくりについてみんなで考え、いじめの起こりにくい環境をつくっていきましょう。

ライブ授業後アンケート

「いじめSTOP!」デー後のアンケートに、たくさんの回答・意見が届けられました。

項目	回数
話をよく聞くこと	10,839
話をよく聞くこと	11,243
お互いを大切にすること	12,190
お互いを認め合うこと	10,955
失敗や苦しみは仕方ないこと	9,685
その他	

すていね!

みんなも自分ができることから行動してみよう!